



Polaris news

【北高ニュース NO.202217】

「実践体験型インターンシップ 미래の北区ダンボールタウンプロジェクト」
高大官連携による壮大なまちづくりの企画運営に美術部が参加
(2022.12.11)

令和5年度で北区は80周年を迎えます。さらに100周年を目指して始動したこの企画は、高大官連携による壮大なまちづくりプロジェクトです。学校、公園、商店、病院など私たちのまちは様々なもので構成されており、それらは地域の方々によって支えられています。住民一人ひとりが地域に愛着を持つことがまちを良くし、魅力を高めていく大きな原動力になります。そして、学生たちもそんなまちの主役の一人であり、未来のまちづくりを支える大事な担い手です。学生の頃から自分が暮らすまちづくりに関わってもらうことで、未来のまちを支える人を創り、将来のまちそのものを創ることに繋がります。学生たちが楽しみながらまちの機能や魅力を学び考え、社会の一員であるという意識を育み、主体的にまちづくりに関わってもらうことを狙いとしています。

■今年度の調査検討地区

- ・大曽根エリア（大曽根駅・OZモール周辺）
- ・味鋤エリア（味鋤駅・味鋤天神通商店街周辺）
- ・名城公園エリア北区役所地区（名城公園駅・柳原商店街周辺）



未来を変える“地域社会に貢献する仕事”にチャレンジ!

実践体験型インターンシップ プログラムレポート

北区制80周年事業 北区役所による「まちづくり」プロジェクト



インターンシップ：名古屋国語専門学校3年 林さんによる作品。ワークショップに向けた参加者募集のチラシイラスト

本プログラムでは「まちづくり」という答えのない問題に学生が異なる属性の仲間と議論・協力し、新たな解決策を提案することを通じ、「考え抜く力、前に踏み出す力、チームで働く力」といった社会人として必要な実践のスキルを身につけていきます。

人口減少や少子高齢化による世代間コミュニケーションの希薄化が進行する一方、様々な価値観・ニーズの多様化が進んでおり、「まちづくり」においても、将来の見通しが難しい中で変化していく環境に対応する必要があります。学生ならではの視点で地域社会の調査・分析を行い、誰もが共感できる提案をバックボーン異なる学生同士で試行錯誤を重ね、実行する経験を積むことで自身の将来の可能性を広げるプロジェクトとなっています。



発行：名古屋市北区企画経営室



キタッコくらぶ募集HP
QRコード



調査・分析

第1回 企画検討会議 2022 8.28 チームビルディング



チームビルディング

北区内に設定されたエリアに分かれ3つのチームを編成し、参加動機の共有から役割分担、議論の進め方、意見出しの視点を確認しました。

また、将来推計人口や住民の年齢別分布、交通インフラ、郷土史など区役所から提供された様々なデータを活用し、議論を重ね対象エリアのイメージや地域課題について「仮説」をたてました。

第2回 企画検討会議 2022 9.11 フィールドリサーチ

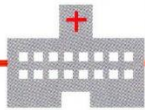


各エリアでフィールドリサーチ

第1回の議論で導いたエリアごとの課題や仮説を念頭にしながら「まち歩き」を実施しました。

目的を持ってまちを観察し、得られる発見は新鮮で“地域課題は難しい”という先入観も仲間と話し合いながら取り組むことで解消でき、新たな視点を獲得する機会となりました。

机上のデータや文献からは得られないまちの雰囲気や住民の生の声を収集できたことは、エリアの未来像を検討するうえで、有益な経験となりました。



未来図・プレゼン資料作成

第3回 企画検討会議 2022 10.2 未来図の作成



未来図

“未来図”とは、30年先の未来を想定し、あるべき姿をまとめた「まちの設計図」です。

地域課題やまちの特色を踏まえた対応策の検討を重ね、国内外の先進事例も参考にしながら、持続可能なまちとして魅力を高めるための提案を議論にて集約してきました。

議論の過程では、まちづくりの経験が豊富な専門家のアドバイスや、まちの課題への取組み事例などについて市職員から説明を受けながら、未来のまちへの提案という形でまとめました。

第4回 企画検討会議 2022 10.23 プレゼン資料の作成



効果的なアプローチ

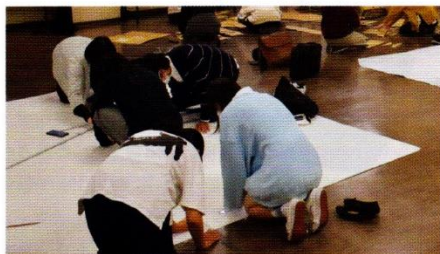
ワークショップに招待する地元小中学生に向けたプレゼン資料は、未来図のエッセンスを分かりやすい表現に置き換えながら興味が膨らむように様々な工夫を加えました。

また、参加前に小中学生の想像力を膨らませる工夫として、事前学習用のツール「未来カード」を考案し、プレゼンと連動させることで、積極的に参加する雰囲気生まれ、楽しみながらまちの機能や将来のイメージについて、多くの気づきが生まれるようにしました。



企画・準備

第5回 企画検討会議 2022 11.13
ワークショップの準備



ワークショップ準備

ワークショップ運営に向け、司会のリハーサルや安全に楽しく工作するための工夫として材料となるダンボールの加工、装飾用の材料の検討、プレゼン資料の準備を分担しながら進めました。

特に司会進行は運営の要となるため、話すテンポやジェスチャー・アイコンタクトなど入念に確認しました。その結果、当日は参加者の気分を高め、会場全体に一体感を持たせることができ、円滑な進行につなげることができました。

ワークショップ当日 2022 12.11



企画検討会議でまとめた北区のまちの特徴や歴史、未来へのアイデアを小中学生に紹介しながら小中学生ならではの自由な発想も加え、3mの模造紙に各エリアの特徴を活かした未来のまちを創り上げました。

完成した作品は小中学生の感想も盛り込みながら発表しました。4時間程度の短い時間で普段作ることができない大きな作品に仕上がること、参加した小中学生の満足度は高く、インターン生を始め会場全体が達成感に包まれました。

みらいの北区ダンボールタウンプロジェクト ワークショップ

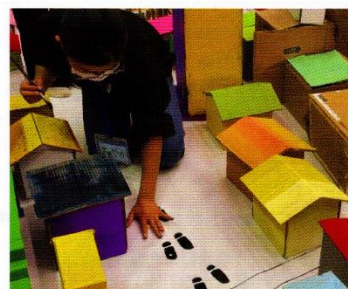
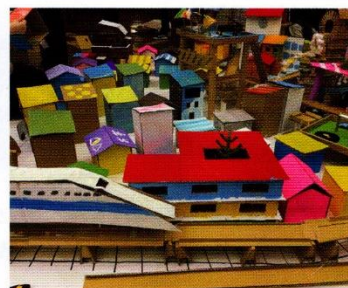
オープニング
各エリアの説明



ダンボールタウンの制作



各エリア作品発表・講評
クロージング





参加者・保護者、インターン生からの声

参加者

- 高校生・大学生のお兄さん、お姉さんが進んで話しかけてくれて、まちの中には同じ共通点があることも分かり勉強になりました。
- あんなに大きな建物など普段、家では作らないから楽しかった。

保護者

- 意欲的に取り組むことができ、家に帰ると作成したまちの説明をしてくれました。北区に住んでいても子どもが知らない施設について知ることができていました。
- 同世代、他世代と一緒に何かを作り上げるとも貴重な経験だと思いました。

インターン生

- 初めは、グループワークに慣れていなくて、どう関わっていくべきか分からなかったが、このインターンを通し協同性を学びました。
- 普段、関わりのない大学生や大人の人に混じって意見交換をするのは良い機会でした。
- 自分の役割を当初は、本当に上手く進行することができるのか、年の違うメンバーの皆をどうまとめ、コミュニケーションをしていけばよいのか悩んだり、迷うことが多かったですが、回数を重ねるにつれ徐々にその不安が解消されていきました。
- 役割の取りまとめとして、メンバーの意見を引き出しながら、集約し成果物をまとめる経験など、実践的に学ぶことができた。

プロジェクトで得られたこと、振り返り

インターン生には、地元の小中学生に向けた地域社会について考えるワークショップの開催を目指し、様々な属性や世代の間と企画検討の段階からワークショップの運営に至るまで取り組んでいただきました。

企画検討会議では、「未来図」を市職員や高校教諭・大学教授からアドバイスを受けながら、フィールドリサーチやデータ分析を行い、誰もが共感する未来図の作成を通じ、本質的な課題を探る力や変化に対応する柔軟性を培っていきました。

また、ワークショップの準備において、参加者がまちの課題やSDGsを学びながらワークショップに取り組み、活発な議論が交わされることを目指した資料やスケジュール等の作成を通じて、創造力や計画力といった力を養っていきました。本番では、進行管理や制作のサポート、まちの説明などを分担して行い、状況に合わせた対応や実行力を発揮していただきました。

ワークショップに向けて、学生自身の学習から調査内容のアウトプット、ワークショップの運営まで主体的に取り組むことができ、参加者・学生ともに高い満足度が得られる結果となり、インターンシップを終えました。

参加者一覧

【インターン生】計42名

・愛知学院大学 5名	・中京大学 6名	・名古屋芸術大学 1名
・愛知淑徳大学 2名	・南山大学 1名	・名古屋市立大学 5名
・愛知東邦大学 1名	・名古屋学院大学 2名	・名古屋造形大学 4名
・椋山女学園大学 2名	・名古屋学芸大学 1名	・名古屋市立北高等学校 12名

【ワークショップ参加者】計28名（小学生24名、中学生4名）

主催・お問い合わせ：名古屋市北区役所企画経理室
住所：名古屋市北区清水四丁目17番1号
TEL：052-917-6429 E-mail：a9176427@kita.city.nagoya.lg.jp

ワークショップ当日の様子 - キタッコくらぶ HP -



みらいの北区ダンボールタウンプロジェクト
URL: <https://kitaku-kids.jp/cardboardtown/>